

3) 学生会

・工学部学生会の活動状況

2004年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、従来活動していた学科の学生組織を基にして、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部(学士課程)の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

2019年度の工学部学生会は、下表の各学科の学生会の役員によって構成され、工学部全体の会長を物質生命化学科4年生の迫田 里帆さんが務めた。近年3年生から役員を務める学科も増えてきている。

学科名	役名	氏名	年次
物質生命化学科	会長	迫田 里帆	4
	副会長	大堀 慶	4
マテリアル工学科	会長	緒方 悠人	4
	副会長	安田美菜子	4
機械システム工学科	会長	前崎 桃果	4
	副会長	上村 恒介	4
社会環境工学科	会長	柴田 恭輔	3
	副会長	杉原 拓海	3
建築学科	会長	北山 光洋	4
	副会長	森下 彩	4
情報電子電気工学科	会長	田中 温	4
	副会長	柳田 峻嘉 瀬戸 萌	4 3
数理工学科	会長	後藤優太郎	3
	副会長	成田 史弥	3

各学科の学生会では、新入生歓迎会や研修会、スポーツ交流会、各種イベントなど学生の自主活動を促すための学生間交流や環境づくりが行われている。各科代表が集まる工学部学生会の会議は2号館学生支援室にて行われている。特に工学部運動会の運営については5月ごろから毎週火曜日の昼休み時間に話し合うなど力を入れている。また、秋季に開催される工学部長との懇談会では学科代表が出て日頃学生生活や勉学環境に対しての要望を出し、工学部での改善事項となっている。さらに学長との懇談会では工学部からは代表の数名が出席し、他の学部の代表学生と共に大学レベルで取り組む必要がある施設、設備や大学のシステムについての質問と要望を出し、大学改善に向けて大学と学生の間で活発な議論を展開している。

・学生会主催による工学部運動会

1952年10月26日に工学部グラウンドで新制大学の第1回工学部運動会が開催されて以来、熊本大学工学部運動会が開催されてきたが、年々参加者の減少は止まらず1999年の第47回運動会を最後に工学部運動会が中止された。

一方、工学部では学生の自治組織を育成するという大学の方針に従い、工学部学生会を積極的に支援し

てきた。運動会中止の決定の後、学生会はスポーツ大会等の企画・運営を行っていたが、2007年には運動会再開の声に後押しされる形で、全競技を一日で行う集合型のスポーツ大会を企画した。その際のスポーツ大会の参加者は200名を超えており、この種のスポーツ大会のニーズが学生の中に十分にあることが確認された。そこで学生会は先輩の運動会復活の想いを引き継ぎ、復活第1回工学部運動会を2008年10月25日(土)に開催した。

2019年度は実行委員を学生会会長の迫田里帆さんが本学大学院自然科学教育部土木建築学専攻1年の大坂洋平(工学団、演武を行う有志の集まり)のもとにまとめた。昨年度からの引継ぎを確実にを行うよう留意して早めに武夫原グラウンドを確保し、加えて例年の天候を考慮して昨年と同時期より遅めの大学学園後の11月16日(土)に開催を決めた。次は熊本大学ニューズレター かけはし No. 31 (2020年3月)への迫田さんによる運動会に関する寄稿の抜粋である。

「明治43年の工友会運動会を起源に持つ工学部運動会は、学年や学科を越えて、学生同士、さらに卒業生との絆を結ぶとても親しまれたイベントでした。平成11年より一時中断していましたが、工学部学生会の努力と熊本大学工業会の支援によって平成20年に復活しました。

そして今回令和元年11月16日(土)に3年ぶりの工学部運動会を実施することができました。過去2年間台風の影響で開催されていないため今年は予備日を決め、さらに台風の影響がなるべく出ないように11月開催としました。今年は“ヤツラを止めるな〜令和になったし暴れるぜ〜”をスローガンとして掲げ新たな新種目も増やしイベント成功に向けて5月から準備を行ってきました。幸い当日は天候にも恵まれ約150名の学生が集まり、各チーム切磋琢磨しながら競技に取り組みました。また女子生徒が増えたこともあり、以前の戦意を鼓舞する雰囲気から誰でも楽しめる形に生まれ変わっています。特に今年初競技であった殲滅戦では来賓の方も釘付けとなり大変盛り上がりました。また各学科の演舞は質実剛健を感じさせる伝統は今なお引き継がれており、OBの方々が嬉しそうにご観覧されていました。」

・学部長と学生代表の懇談会

工学部1号館2階 会議室Bにて11月1日(金)18:10-20:30の2時間余り、学生会と学部長との懇談会を実施した。学生側から学生会会長、学生会副会長2名および各学科学生会代表8名、工学部側から宇佐川工学部長、連川副学部長、藤吉副学長、教務委員長、学生支援委員長、各学科学生支援委員、工学部教務担当係長の14名が参加した。

昨年に引き続き、まず懇談会実施前に学生会より提出された〈要望・提案〉に学部長を中心とする工学部教員が回答する形で懇談会が進められた。その後、参加者による質疑応答や意見発言などの自由な意見交換があった。

まず、教育研究に関することとして、多くの意見が出されていたターム制について質疑応答が行われた。「セメスター制とターム制の科目が混在しており、常に試験という感覚で負担が重く、ターム制の意義が感じられない」等の意見に対しては、新学部を設置後4年間には変えられないことの説明があり、ターム制には学習効果を高める効果があることも理解してほしい旨の回答がなされた。また、Moodleでターム制に係る意見を学生に照会し状況の把握に努めたい旨説明があった。

その他、シラバスの内容記載が十分でない、インターンシップに参加するために授業を配慮してほしい、授業に関する情報の伝達方法を改善してほしい、祝日に授業を実施しないでほしい、駐輪場を増やしてほしい、学内全面禁煙に伴い学外での喫煙を対処してほしい、トイレを改修してほしい、通学路に街灯を設置してほしい等の意見が学生から出されたが、学生の認識不足の点、教員側で改善努力を要する点、工学部では直接実現できない件には他部局・機関に要求する点などを含む状況説明が十分になされ、学生からの理解を得た。

最後に副学部長より、「学生の皆さんからのご指摘・ご要望については真摯に受け止め、教職員側も今一度、よりよい教育・研究のために善処していきたい。お互いの理解を深め協力しながら共によりよい大学を作り

上げていきたい。」との言葉でまとめられた。